

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	物理
----	----

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

難易度は例年通りで標準的であり、いくつかの設問でやや難のレベルが混じっていた。昨年よりも設問数としては増えたが、例年では1つの設問に複数の空欄補充が出題されていたことを考えると、分量はほぼ同じである。昨年度と今年度は空欄補充がなくなり、出題傾向が徐々に変化していく過渡期かも知れない。

## 〈特記事項・トピックス〉

長らく定着していた空欄補充がまったくなく、グラフの選択問題も一切なかった。また、計算欄も出題されず、『数式を用いて簡潔に述べよ』という問い方に変わった。グラフ描画が久しぶりに求められた。設問数はやや増加した。なお、答えに使える文字は設問ごとに指定されるので、その都度確認しておかないといけない。

## 〈合格への学習対策〉

標準レベルの頻出問題にしっかり取り組み、物理的説明が思い浮かぶように心がけた学習を積んで欲しい。単に計算のみでは問題の意味を読み取れないことも起こりうるので注意しておくこと。設問同士、空欄同士の関連性も意識して、問題を丁寧に解き進められるようにしよう。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述 論述	物理	斜面をもつ台からの小球の発射, 斜方投射, 衝突	(4) までは滑らかな床上を自由に動ける発射台からの小球の打ち出しを扱う問題である。x 軸, y 軸の説明が問題文に記されておらず, 図に描かれているだけであつたため戸惑つたかもしれない。(5)以降は小球の斜方投射と衝突を扱う。(7)において $\theta$ を消去する方法と(10)の計算を要領よく処理できるかで解答にかかる時間と得点に差が生じたであろう。	標準
II	記述 グラフ 描画	物理	三角形の極板をもつコンデンサーと誘電体にはたらく力	極板間に挿入された誘電体にはたらく力を考える。(2)の誘電体がある部分の電気容量を求める設問で間違えてしまうと雪崩式の失点につながる。また,(6)以降で与えられる $\Delta$ は最初は微小量ではないので(9)までは近似はできない。設問ごとで使う文字が変わるので必ず確認して解答する必要がある。(10)のグラフ描画は(9)の式を基に描けばよい。	標準
III	記述	物理	波面から考える音波の振動数	波面の様子から音波の波長や観測される振動数を求めさせる問題である。(3)以降の風が吹く設定において波面の状況を把握できたかどうか。特に,(6)のy軸上の隣り合う波面の間隔 $\Delta Y$ がやや難しかった。(9)(10)の音波の干渉はいろいろな解法があるが, 難しく考えてしまうと時間がかかってしまう。また,(7)のみドップラー効果の設問であつた。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。